

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 全産業活動指数(2010年12月)

発表日2011年2月21日(月)

～10-12月期は前期比▲1.1%と7四半期ぶりにマイナスに～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 小杉 晃子
TEL : 03-5221-4548

(単位:%)

		全産業活動指数											
		前期比		前年比		第3次産業活動指数		鉱工業生産指数		公務等活動指数		建設業活動指数	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
09	1-3月	▲6.3	▲11.1	▲3.1	▲6.6	▲20.0	▲34.6	0.2	▲0.3	▲0.5	▲1.1		
	4-6月	1.1	▲9.3	▲0.6	▲6.1	6.5	▲27.4	▲0.2	▲0.1	▲2.0	0.1		
	7-9月	1.1	▲7.0	0.6	▲4.7	5.3	▲19.4	0.1	0.7	▲6.2	▲6.4		
	10-12月	0.1	▲3.7	▲0.3	▲3.4	5.9	▲4.3	0.0	0.1	▲5.3	▲13.5		
10	1-3月	1.4	3.7	1.1	0.7	7.0	27.5	▲0.8	▲0.8	0.7	▲12.2		
	4-6月	0.8	3.4	▲0.1	1.3	1.5	21.0	▲0.7	▲1.4	▲0.8	▲11.3		
	7-9月	0.7	3.1	0.8	1.6	▲1.8	13.5	0.9	▲0.6	2.4	▲3.2		
	10-12月	▲1.1	1.9	▲0.2	1.6	▲1.6	4.9	0.0	▲0.6	▲2.7	▲0.6		
09	1月	▲1.3	▲9.0	▲0.1	▲4.5	▲8.4	▲30.9	▲0.2	▲1.0	▲0.7	▲1.5		
	2月	▲3.7	▲12.5	▲0.7	▲7.4	▲8.6	▲38.6	0.3	0.8	▲0.1	▲1.1		
	3月	▲1.0	▲11.7	▲3.4	▲7.7	2.2	▲33.8	0.2	▲0.8	▲0.5	▲0.9		
	4月	2.4	▲10.0	2.0	▲6.2	4.5	▲31.0	▲0.6	▲0.9	0.2	0.9		
	5月	0.9	▲10.0	▲0.2	▲7.1	4.6	▲29.0	0.5	1.2	▲1.6	1.0		
	6月	0.3	▲7.9	0.2	▲5.1	1.5	▲22.5	▲0.3	▲0.8	▲2.5	▲1.3		
	7月	0.5	▲8.0	0.5	▲5.3	1.1	▲22.3	0.2	0.6	▲2.5	▲3.5		
	8月	0.0	▲6.3	0.2	▲4.1	1.5	▲18.3	▲0.2	0.4	▲1.5	▲6.5		
	9月	0.1	▲6.7	▲0.3	▲4.7	1.8	▲17.5	0.1	1.3	▲1.9	▲8.8		
	10月	0.2	▲6.1	0.2	▲4.4	1.5	▲14.4	▲0.2	0.5	▲1.0	▲10.5		
	11月	▲0.2	▲3.3	▲0.2	▲3.0	2.6	▲2.9	0.2	▲0.5	▲3.6	▲14.5		
	12月	▲0.3	▲1.6	▲0.7	▲2.7	2.6	6.4	0.2	0.3	▲0.4	▲15.3		
10	1月	3.4	1.9	2.9	▲0.1	4.3	18.9	▲1.3	▲0.3	0.7	▲13.9		
	2月	▲2.2	4.2	▲0.5	0.6	▲0.6	31.3	0.5	▲0.6	4.3	▲10.0		
	3月	▲0.6	5.0	▲2.6	1.8	1.2	31.8	0.0	▲1.5	▲4.0	▲13.0		
	4月	1.9	4.0	2.4	1.8	1.3	25.9	▲0.8	▲1.1	▲4.4	▲17.0		
	5月	0.0	3.1	▲0.9	1.1	0.1	20.4	▲0.1	▲1.7	9.2	▲8.1		
	6月	0.2	3.0	0.2	1.0	▲1.1	17.3	0.0	▲1.4	▲2.7	▲8.3		
	7月	0.9	3.0	1.4	1.5	▲0.2	14.2	▲0.1	▲1.0	0.8	▲5.3		
	8月	▲0.1	3.8	▲0.1	2.3	▲0.5	15.1	1.5	▲0.7	2.2	▲1.7		
	9月	▲0.8	2.7	▲0.9	1.3	▲1.6	11.5	0.0	▲0.3	▲2.8	▲2.8		
	10月	▲0.3	1.3	0.3	0.6	▲2.0	4.3	0.0	0.7	0.5	▲1.1		
	11月	▲0.2	2.3	0.5	2.4	1.0	5.8	▲0.7	▲1.4	▲3.1	▲0.5		
	12月	▲0.2	1.9	▲0.8	1.8	3.3	4.9	0.0	▲0.9	▲0.1	▲0.2		

(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

○ 全産業活動指数：前月比▲0.2%

12月の全産業活動指数は前月比▲0.2%と、ほぼコンセンサス(同:▲0.1%、レンジ:同▲0.3%～+0.3%)通りの結果となった。鉱工業生産指数は改善したものの、第3次産業活動指数が悪化したことから、全産業活動指数は5ヶ月連続のマイナスとなった。

内訳別にみると、プラスに寄与した指数は鉱工業生産指数(前月比寄与度: +0.58%ポイント)、マイナスに寄与した指数は第3次産業活動指数(同:▲0.54%ポイント)、建設業活動指数(同:▲0.01%ポイント)、公務等活動指数は横ばいであった。

四半期ベースでも、10-12月期は前期比▲1.1%と、駆け込み需要の反動の影響や輸出・生産の鈍化などを背景に7四半期ぶりにマイナスとなっており、景気の踊り場の状況が確認された。

○ 鉱工業生産指数は改善、第3次産業活動指数は悪化

個別にみると、鉱工業生産指数は前月比+3.3%と2ヶ月連続のプラスとなった。業種別では、輸送機械

や電子部品・デバイス、情報通信機械などが上昇した。エコカー補助金制度終了に伴う自動車の大幅な減産の動きが一巡したことやIT部門の在庫調整の進展などが背景にあると考えられる。

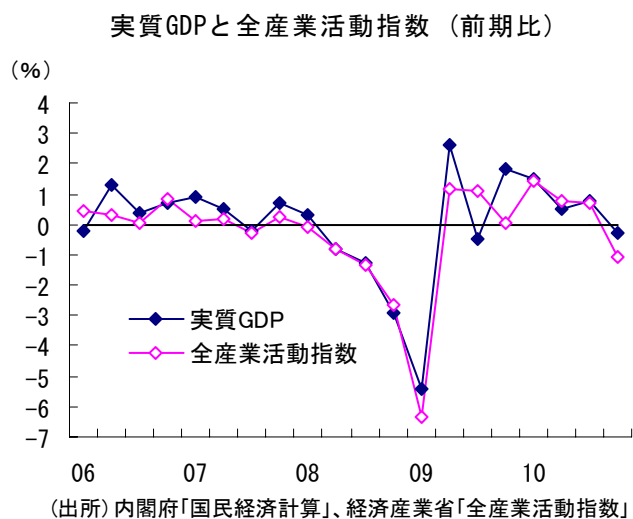
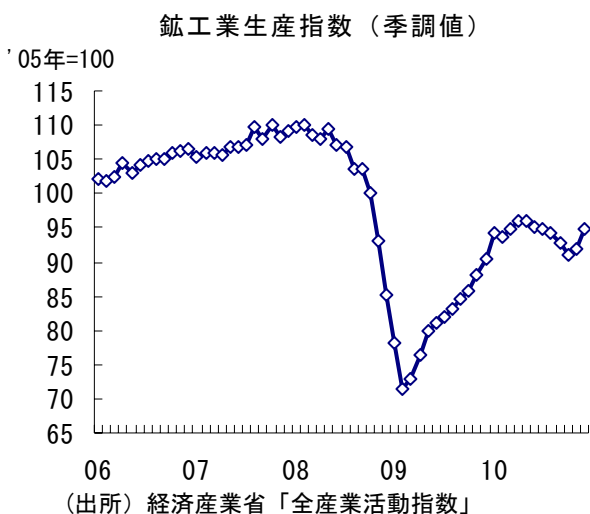
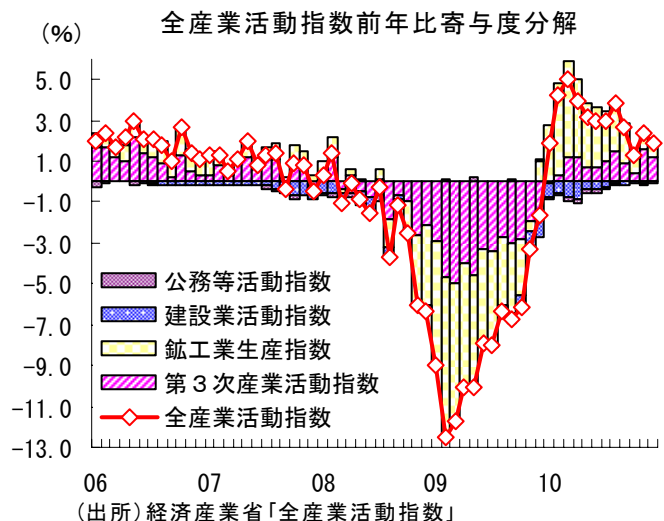
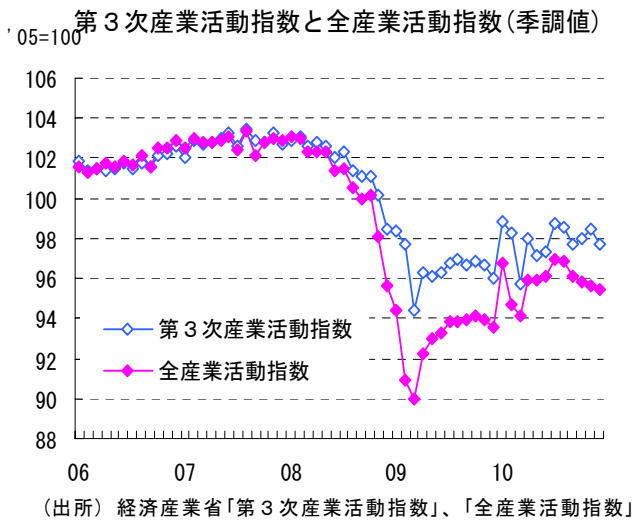
一方で、第3次産業活動指数は前月比▲0.8%と3ヶ月ぶりにマイナスに転じた。エコポイント半減による薄型テレビの駆け込み需要の反動の影響によって、卸売業、小売業などの活動が悪化したことがマイナスに寄与した。

加えて建設業活動指数も、住宅販売の持ち直しなどを受けて民間・建設・土木活動指数は前月比プラスとなったものの、公共投資の減少などから公共・建設・土木活動指数がマイナスに寄与したため、全体では前月比▲0.1%と前月(同▲3.1%)に引き続きマイナスとなった。公共事業の発注の動きを示す公共工事請負金額は足もとで弱めの動きが続いていることを踏まえると、公共投資は今後も低調な推移が続くだろう。

○ 先行き輸出の増加に支えられる形で緩やかに回復に向かう可能性が高い

このように、駆け込み需要の反動の影響から個人消費が落ち込んだことや、輸出の鈍化、公共投資の減少などを背景に、全産業活動指数はこのところ改善が足踏み状態にある。

もともと、足もとでは中国などを中心とした世界経済の回復基調が持続しており、日本からの輸出や鉱工業生産などは既に持ち直しの動きが出ている。駆け込み需要の反動による個人消費の下押し要因があるため、第3次産業活動指数は今後も弱い動きが続くと思われるが、輸出の増加に支えられる形で全産業活動指数は今後、緩やかに回復に向かう可能性が高いだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。